

新法王フランチェスコ就任

大ローマ布教所長
山口 英雄 Hideo Yamaguchi

第265代法王ベネディクト16世(ラッツィンガー)の辞任を受けて2013年3月12日、13日とコンクラーベ(法王選出選挙)が行われた。13日5回目の投票で、投票参加者の115名の枢機卿の3分の2以上の投票を得て、19時6分システナ礼拝堂の煙突から白い煙が出て、266代目の新法王が決定されたことが告げられた。その後多くの人は新法王は一体誰だろうと固唾をのんで待ちわびた。新法王決定のニュースを受けて、多くのローマ人が、雨の中、新法王を間近に見ようとサン・ピエトロ広場集って来た。

決定より1時間以上経過した20時22分、サン・ピエトロ教会の2階の中央のカーテンが開き、おちばを訪れたこともあるトーラン枢機卿の「我々は法王を戴いた」という宣言の後、現れたのはホルゲ・マリオ・ベルゴリオ(Jorge Mario Bergoglio)氏であった。広場の人、テレビの前の人一瞬誰なのか分からなかった。新法王の候補10人の中に入っていなかったのだ。報道陣も面食らったのか、驚きの声で論評も歯切れが悪かった。次第に誰だと分かり、また急いで集められた彼に関する資料が編集室に届き、ごちなさが無くなった。皆は新法王の第一声を待った。「私の兄弟、枢機卿たちが地の果てから連れて来た私はローマの大司教」、ここで一齐に拍手が起り、歓声があがった。話の中で「私はローマのための大司教で福音化に寄与する」と述べ、ローマの大司教であることを繰り返し、法王という言葉を使わなかった。そして「私はあなたのために祈るが、あなたがたは私のことを祈って欲しい」と訴えた。ここで、新法王は全員の共感を得て、愛され、信頼される純真な法王というレッテルを貼られた。

法王ベルゴリオはフランチェスコという法王名を採用。法王達が法王になって、自分の苗字ではなくて、法王名を採用するようになったのはヨハネス2世(533~535)からである。苗字そのままだと異端の神々のように思われるからだという。533年以降のローマ法王で、名前の多いのが、ヨハネスの21回、ベネディクト、グレゴリオの16回、クレメンテの14回と続いていくが、フランチェスコと言う名前を採用したのは現法王が初めてである。もちろん、これはイタリア・アッシジの聖フランチェスコを指している。今までにフランチェスコ会出身の法王は4人いるが、別の名を付けている。アッシジの聖フランチェスコは「清貧」「服従」「貞潔」の3信条を掲げている。法王は現在の教会を見て、「清貧」に帰ろうというのだ。しかし、今までの法王の中には中世の「清貧」主義には戻れないということで、フランチェスコという名前を採用しなかったのだろうと推測されている。また、フランチェスコは対話を意味している。新法王は世界の諸宗教との対話も促進していくというのだ。

新法王フランチェスコは1936年12月17日アルゼンチンの都ブエノスアイレスで生まれている。現在76歳。親はイタリアからの移民。1958年イエズス会に入会。修道士となる。1992年5月20日司教となり、2001年2月21日ヨハネ・パオロ2世より枢機卿に任命される。2005年4月コンクラーベに参加。ラッツィンガーに次いで40票を獲得。ラッツィンガーは守旧派と見られているが、新法王は進歩派と見られている。

これから教会の改革が進んで行くことだろう。

新法王は若い頃学者になろうとして、色々な分野で勉強している。1958年にはチリに行き、人文学を究め、1963年にはアルゼンチンに戻り、サン・ミグエルのサン・ジュゼッペ大学で哲学部を卒業。1967年から1970年にかけてはサン・ジュゼッペ大学で神学を勉強し卒業。1986年3月ドイツに行き博士号を取得。

1998年2月28日にブエノスアイレスの大司教になった。その時に4つの目標を立てた。

- ①開かれた、そしてきょうだいの共同体を作ること。責任を持った在家集団とする。
- ②都市の人々の福音化。
- ③貧者と病者への支援。
- ④ブエノスアイレスの再福音化。

上記の4目標を達成するために、司祭も在家信者も共働することが求められた。ベルゴリオ大司教自らは貧者の思いを考え、次のようなことを実行した。

- ①大司教宅に住まないで普通のアパートに住む。
- ②公用車は使わない。移動には町のバスや地下鉄を利用。
- ③人を使わないで自炊。お客のある時には自ら台所に立ち、料理をしてもてなした。
- ④夜9時就寝、朝4時起床。

初めて法王として、教会の2階の中央のバルコニーに現れた時にも、赤くて金の刺繍のあるマントを羽織らないで、白い洋服だけだった。そして胸に掲げる十字架。今までの法王は金の大きな十字架を首にかけたが、新法王フランチェスコはそれまでの鉄の十字架をつけて登場。靴は今までの法王が履いたような赤い靴ではなく、今までの自分の黒い靴を履いていた。

法王に就任した翌日3月14日、新法王は聖母マリアに報告とお礼を述べるために、朝8時にヴァチカンを出てサンタ・マリア・マジョーレ教会へ赴いた。そこで祈りをした後公用車に乗らないで、他の枢機卿が乗っているマイクロ・バスに乗ってヴァチカンに戻った。途中、コンクラーベが始まるまで滞在していた宿舎に行き、宿泊費を直接支払った。

法王はイタリア人に非常に愛される人となった。

最近行われた世論調査を見てみよう。

- 1) 新法王を信用するか。 信用する 83%
 - ・そのうちカソリック信者からは 95%
 - ・カソリック信者以外からは 61%
- 2) 新法王は教会改革に寄与するか。 する 58%
- 3) 新法王の何処に魅せられたか。(複数回答)
 - a) 純粋さ 72%
 - b) 使用言語が庶民の言葉 67%
 - c) 弱者への配慮 65%
 - d) 平静さ 45%
 - e) 出身地 30%

ともあれ、新法王はアメリカ大陸初の法王であり、イエズス会出身の初の法王であり、フランチェスコと名乗った初の法王である。法王はスペイン語をはじめ、英語、フランス語、ドイツ語、ラテン語、イタリア語など多くの言語を話すことができる。